

図書館通信 —88—

1989. 7

取 越 苦 労

森 口 治 生

2年間のやとわれマスターのおつとめ期間が何とか終わりました。

無類の怠けもののマスターをかかえ、おまけにその怠けものに何がしかの手当まで拂っていながら、図書館が潰れもせず生きながらえたことは、一つには親方日の丸のおかげとはいうものの、館員はじめ、色々御協力頂いた教職員、学生の皆さんに負う所で、感謝と御同慶に耐えません。

所でこれからは他人様の仕事になるので、無責任かつ遠慮なく言わせて頂くなら、図書館にはまだまだやるべき仕事は山程あります。20年前に大谷の本館が出来た時は、当時の規模の大学としては、少なくとも建物については一つのモデルでした。今我々の大学にとって必要最低限の役割は果たしているとしても、大学として自慢出来るものと言うには少し疑問を感じます。昔の荒れた校地の小さかった苗木が美しく緑に育って、あまりにも自然環境がよくなりすぎたからでしょうか。

もちろん、図書館のありようは大学全体のありようと無関係ではありません。その意味では、図書館がどうなるかは、大学にかかる皆が、大学をどう考えるかにかかっていましょう。

夏休みに入りますが、休みになる度に、私は学生がいなければ大学程良い所はないという気になります。きっと大多数の教官も多かれ少なかれそんな気になることがおありでしょう。大多数の学生さんも教師がいなければ大学程良い所はないと思うことがあるでしょう。だが、これはどこかの国の大統領か何かの芸者との関係と同様(又はそれと違って)、たとえ腹の中でそう思っても、口にしたり書いたりしてはいけないことです。が、学生は若氣の至りで、そう思うとすぐ実行にまで及びがちで、学生のなれの果てである教官も、とかく本音を吐きがちです。しかし時にはじっとがまんして、本音をおさえて建前を活かすことも必要なでは。

つまり学生は勉強すべきものであり、教師は学生に勉強させるべきものであり、大せいの学生に教えることは、教えないことよりずっとよいことだと。

やがて数年のうちに、18才人口の減少期が来ます。ある意味で恵まれた世代になり、一方では老人大国を支えて行かなければならぬ彼等に、我々の大学は何を与えることが出来るのか。その中で図書館はどんな役割をもつのか。まだ急ぐことはないかも知れませんが、ぼちぼち考えて行かなければならぬことでしょう。そんな時には、まず建前を考えておかないと、やがて本音を吐くことも出来なくなってしまわないかと。これがその時には、もう居なくなる老人の取越苦労であってくれれば幸ですが。

どうも余計なことばかりで申し訳ありません。ま、皆さんこれからもがんばって下さい。

(理学部・物理学、前館長)

SSCIの利用

参考調査係

このほど参考図書コーナーに Social Science Citation Index (SSCI) が備付けられました。きわめてユニークな性格を持つ二次資料ですので、使い方の簡単な説明をして、紹介とします。

1.はじめに

学術論文には、例外なく引用文献欄が付加されています。先人の業績を語るとき、あるいは、自らの論拠の正統性を示すため、関連の文献を引用することは、学術論文では必須の条件ですし、その場合、それらを明示する必要があります。

被引用文献と引用文献との間には何らかの関係がありますから、引用文献欄に登場したひとたまりの論文相互にも、何がしかの共通項を見い出せる、と考えることが可能となります。SSCIはそうした考えにもとづいて、引用文献欄に主眼をおいて作られています。

(注1)

2.概略

その名前のとおり、社会科学を対象としていますですが、具体的には次の分野を扱っています。

人類学、考古学、地域研究、事務・財政、コミュニケーション、公衆衛生、犯罪・刑罰学、人口統計学、経済学、教育研究、人種問題、地理、歴史、図書館情報学、国際関係、法律学、言語学、経営学、マーケティング、哲学、政治学、精神医学、心理学、社会学、統計学、都市計

画・都市開発。

約1,500の雑誌(Fully Covered Source Journal)のすべての論文と、その2倍強の数の雑誌(Selectively Covered Source Journal)の重要な論文を対象とし、ここ数年は、毎年約13万点の論文を扱い、引用の数は150万を超えてます。世界の中でも、最大級の索引のひとつ、といって差しつかえありません。

次の3つのものから形成されています。

3. Source Index (SI)

SSCIに収録されている全論文の著者別索引ですが、メイン・エントリーの後に引用文献欄をしたがえているところがミソ。図1の冒頭では、Am. J. Agr. Ec.誌の64巻2号に掲載されたD. M. Adamsの論文には、14の論文が引用されて

<i>first source author</i>	ADAMS DM			<i>coauthors</i>
HAYNES RW DUTROW GF BARBER RL VASIEVIC JM—PRIVATE INVESTMENT IN FOREST MANAGEMENT AND THE LONG-TERM SUPPLY OF TIMBER				
AM J AGR EC 64(2) 232-241 87 14R F4512				<i>source item title</i>
OREGON STATE UNIV. CORVALLIS, OR 97331 USA				
80 FOREST PRODUCTIVITY				
40 447				
73 20 REP				
80 REV DRAFT AN TIM SIT				
77 OREGON STATE U FORES			19	
88 FOREST SCI MONOGRAPH			22	1
79 THESIS OREGON STATE				
79 BELL SC			19	447
1878 REPORT FORESTRY			1	
72 21 N CAR STAT U DEP				
74 USDA FOR SERV TECH 8			1908	
67 HILGARDIA			30	1
80 FOREST POLICY PROJECT				
74 FOREST SCI			20	191
				<i>year, journal abbreviation, volume and page of reference</i>
<i>listed references from the bibliography of the source item (Note: anonymous authors are listed first.)</i>				
<i>source journal title</i>	THE FISCAL CONDITION OF THE STATES			
PHI DEL KAP 63(9) 598-600 87 2R G4733				
EDUC COMMIS STATES ON EDUC PROGRAMS. DENVER CO USA				
81 SURV CURR BUS				
82 1982 NAT COUNC STAT				
<i>cross-referenced secondary author</i>	ADEY M			<i>first source author's address</i>
see YESAVAGE JA	J PSYCH TR	3	545 86	
<i>first source author</i>	ADLER DA			
■ A FRAMEWORK FOR THE ANALYSIS OF PSYCHOTHERAPEUTIC APPROACHES TO SCHIZOPHRENIA				<i>source journal year</i>
YALE J BIOL 58(3) 219-225 87 11R G0006				
NEW ENGLAND MED CTR DIV ADULT PSYCHIAT BOX 1007 171				
HARRISON AVE. BOSTON, MA 02111 USA				
81 HOSP COMMUNITY PSYCH			32	387
ANTHROPOLOGY			32	658
FRIEDSON E			71	
MCGLAUGHIN TH			40	905
				<i>number of references</i>
<i>source item from a selectively covered journal</i>				
<i>source item language code</i>	AEBLI H			<i>language of the book being reviewed</i>
(GE) GOAL-DIRECTED BEHAVIOR-GERMAN- VONCRANACH, M, KALBERMATTEN, U				
►BOOK REVIEW				
PSYCHOLOGIE 40(2) 161-162 87 1R G5719				<i>term indicating type of item</i>
<i>author of book being reviewed</i>	■ A PERFORMANCE EVALUATION OF STATE-OWNED ENTERPRISES—A PROCESS PERSPECTIVE			
MANAG SCI 27(11) 1340-1347 87 8R G1097				
TEL AVIV UNIV. RAMAT AVIV ISRAEL				
70 REP COMM PREP GOV CO				
61 CMND 1337				
77 CROWN CORP DIR CONTR				
76 J FINANCIAL EC			3	305
64 EC THEORY MANAGERIAL			40	
69 ANN PUBLIC COOPERATI			2	
79 AM EC REV			69	495
71 EC ANAL PUBL ENTER			49	253
<i>(►) corporately authored references</i>				<i>Article can be purchased from ISI's The Genuine Article™ service. Refer to this ISI acquisition number when ordering.</i>
				<i>source journal volume, (issue); and pagination</i>

いることが読みとれます。

また、SIには、著者を所属機関別に整理しなおしたCorporate Indexが、別建てで収録されており、あとでのべるように貴重な情報源となっています。

4. Citation Index (CI)

説明の順序の関係から2番目となってしましましたが、これがSSCIの本体といって然るべきも

cited author	RENOUX G	reference volume and page
cited reference year and journal (see SSCI® JCR® for complete cited journal listings)	73 B WORLD HEALTH ORGAN THELIN A SC J S MED 48 667 1980 1 87	
	74 MED MAL INF 4 159 CHANTAL J REV MED VET 132 135 87	
	76 PUBLIC POLICY MARKET 53 WESTBROO RA J RETAILING 57 68 87	
undated item	RENZULLI J • UNPUBLISHED BALDWIN AY EXCEPT CHIL 47 326 87	source journal volume, page, and year of source (citing) item
source (citing) author	77 ENRICHMENT TRIAD MOD CASSIDY J READ TEACH 35 17 87 FOSTER W GIFT CHILD 25 17 87 ROGERS VR " 25 175 87	
E.G. RERRICK's 1972 article in the journal of Mental Deficiency was cited by D. PITCHER in an article published in CRC Critical Reviews in Clinical Laboratory Sciences in 1986.	RERRICK EG 72 J MENTAL DEFICIENCY 16 84 PITCHER D CRC C R LAB 13 241 87	
G.A. OBUKHOV cites three publications by N. REVELMACDONALD.	REVELMACDONALD N 75 HOMME ANIMAL 317 78 ASEMI 9 243 78 PALAWAN PHONOLOGIE C SEE SCI FOR 1 ADDITIONAL CITATION OBUKHOV GA SOC SCI INF D 19 971 87	
additional citing item indicator	REVILLE 1892 REV HIST GOHN JB 50 1 GEORGET LAW 70 943 87	
reference year earlier than 1900		

のです。SIの引用文献欄に登場した論文を、その著者名によって再構成したもので、図2に従いますと、G. Renouxなる人物に関して、SSCIの当該の号の期間に次の3つの引用がなされたことが解ります。

- ① B. World Health Organ.誌に寄稿した論文が、Thelinという人のSc. J. S. Med.誌上の論文に、
- ② Med. Mal. Inf.誌に寄稿した論文が、Chantalという人のRev. Med. Vet.誌上の論文に、
- ③ Public Policy Market誌に寄稿した論文がWestbrooという人のJ. Retailing誌(注2)上の論文に。

また、(個人名ではない)研究機関名等を著者とするものや、出版機関名などが標目とされることの多い古文書は、Corporate Author Index、また著者名不明のものはAnonymous Citation Indexとして、別建てで索引化がなされています。

5. Permuterm Subject Index (PSI)

SIからCIへという流れを見ますと、そこにコンピュータの介在が考えられます。で、それでは、という訳でもないでしょうが(注3)、このPSIは、コンピュータの能力を発揮させた、SSCI特有の索引。SIに収録された全文献の表題のキーワー

ドによる主題索引ですが、“Permuterm ← Permuterm term =並びかえられた語”という名称を持つように、単語を独立に扱うのではなく、順列組み合わせのようにペアで並びかえています。

図3によれば、AGEINGあるいはAGINGなる語は、ACCELERATED以下ZURICHまでの11語との間で17種(論文数では▶印の数12)の組み合せで出現していることが判明します。

6. なにができるか

.....

SI、CI、PSIといふ、それぞれに特徴を持った索引ですので、他ではできないような独得なアプローチが可能となります。

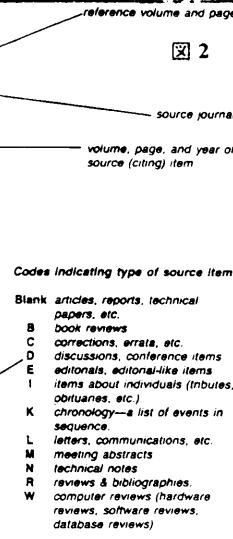
先ず、検索の対象とする分野に対し詳しい知識を持っていいる場合。検索の起点となりうるような論文を決めます。CIに当たり、それを引用している論文を調べ

ます。その何点かの論文のデータをメモし、SIに当ります。一連の引用文献群が得られますが、それらは、何がしかの参考になる筈です。重複して引用されている論文は、重要なものである可能性が大きい、といえるでしょう。当然、その重要と思われるもののCIに当ることも可能ですし、そこから再びSIへ.....と、検索を繰り返すことによって、起点となった論文と直接引用関係にはなくても、密接な関連性を持った重要な論文を探し出せるかも知れません。

対象とすべき分野に詳しくない場合は、起点とすべき論文を判断するのは困難でしょう。また、ピントのはずれたものを起点としたときは、検索を繰り返すうちに、どんどん対象とすべき主題から離れていってしまう危険性が大きくなります。

そのような時は、PSIを使用します。キーワードになりそうな語を決め、PSIに当ります。関連する単語と、該当の単語を標題に含む論文を得ることができます。ここで、関連する単語を選択するなら、さらにPSIを、論文の場合には、CI、SIをさぐることになります。

また、対象とする分野で顕著な業績をあげている研究機関がわかっている時は、SIのところでのべたCorporate Indexを使ってください。



Codes indicating type of source item:

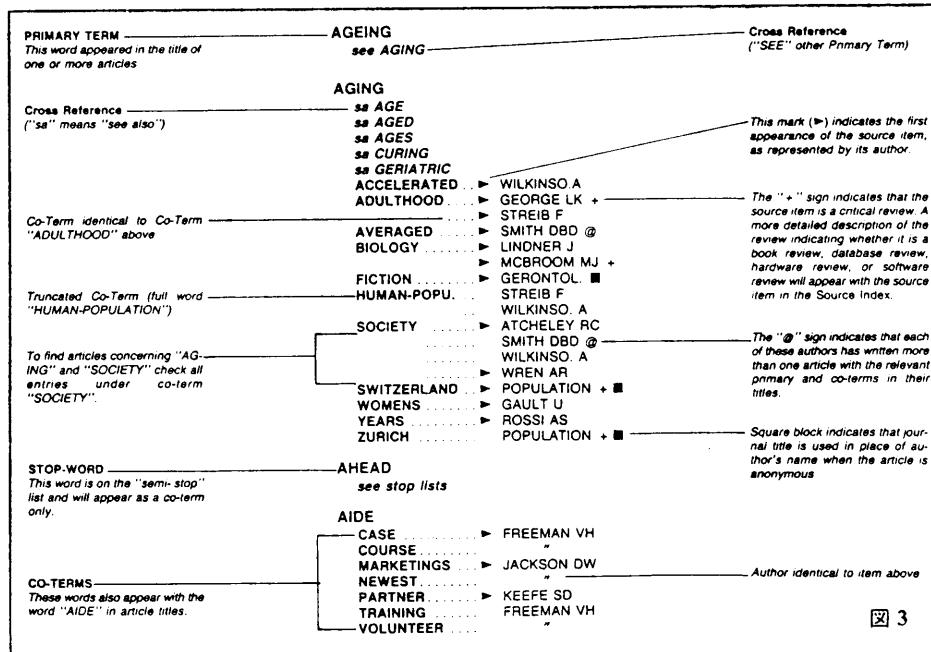


図 3

とは、収録範囲の大きさとあいまって、境界領域の分野に対して、非常に強力なアクセスを可能とします。

②過去にさかのぼるといつても、引用関係が連続と続くことは、動的変化を把握することを意味する訳ですので、未知の論文に対して的確な評価をするための手立てが求め易くなるでしょう。

もちろん、社会科学系で最大の規模を誇る索引ですので、CI、SI、PSIを、それぞれ独立したものとして使用することも、それなりに有効でしょう。

7. 長所と問題点

以上のように、かなり毛色のかわった検索の方法が可能ですので、重複するかも知れませんが、その長所と問題点をまとめてみます。

基本的には、この索引の特長=長所と表裏一体のものとして、問題点が存在します。特定の論文、あるいは単語から、未知の論文群へと検索の範囲を拡げることが可能ですが、拡大するほどに無関係なもの（ノイズ）が含まれ易くなります。このことへの対策（注4）もゼロという訳ではありませんが、完全に対処するには、大きな労力が必要となるでしょう。

Citation(引用)を検索の主な手段にするということは、特に、繰り返しの方法を導入する場合、過去へさかのぼることに他なりません。検索の結果として、誰れもが認める、その分野のスタートのマニフェストとでも言うべきものに到達したとするなら、その作業は限りなく正解に近いもの、と言うことも可能です。しかし、日々、ダイナミックに動向が変化するような分野では、そのような結果を得たとしても、ほとんど無意味、と言って差しつかえありません。

以上のような問題点を念頭に置いて作業を進めるなら、他の索引では不可能な、SSCIの次のような長所が、最大限に発揮される筈です。

① CI → SI → CI……と、発展的な検索が可能なこ

③図2にあるように、CIには論文のタイプが示されていますので、それを的確にキャッチするなら、きわめて効率の良い検索が可能となります。とりあえずは、参考図書コーナーで、手にとってみてみることをおすすめします。

(注1) この種の索引で、最初に実用化されたものは、判例を対象とした、アメリカのShepard's Citationだといわれています。さもありなん、という気がしますが、SSCIの出版元 ISI社では、人文科学・芸術の分野を対象とした AHCI、自然科学分野での SCIも発行しています。

(注2) Sc. J. S. Med.などというのは、SSCIで使用されている略誌名。膨大な量の情報を、できる限りコンパクトにまとめようとした結果生じたものですが、本索引の使いにくさの原因のひとつとなっています。

(注3) SIからCIが導かれ、その副産物として PSIが出来た、というのは、本稿の筆者の《想像》にすぎませんが、まったくの見当違いということは無いと考えられます。

(注4) 2つの文献が同一文献を引用した時、一定の評価を与え、その評価のもとに一定の文献群を選び出す方法、あるいは、互いに引用関係の無い論文が、同時に引用された時、そのふたつを一つのセットと考え、そのセットの出現に評価を与え、やはり、ひとつの文献群を形成する方法、などが考え出されています。

図書館委員会報告

(昭和 63 年度第 2 回 S 63.12.7・水)

議事

1. 昭和 63 年度学生用図書購入費第 2 次配分について審議し、原案どおり承認した。
2. 昭和 63 年度外国雑誌購入費の配分について、原案どおり承認した。
3. 昭和 64 年度指定図書の実施方針を承認した。
4. 昭和 64 年度大型コレクション収書計画については、関係部局に収書計画調書の提出を依頼し、その提出期限を昭和 64 年 2 月末日とすることを了承した。
5. 昭和 65 年度概算要求事項（図書館の冷房）については、東部図書館委員会の審議結果に基づき要求することを了承した。

(昭和 63 年度第 3 回 H 1.3.24・金)

議事

1. 平成元年度図書館経費の編成方針については、「図書館経費の配分及び負担等の基準」のとおり編成することを承認した。
2. 平成元年度図書館業務電算化実施計画を了承した。
3. 平成元年度大型コレクション収書計画については、調書の提出があった 3 件の資料を文部省に要求することとし、その要求順位については、人文学部、教育学部、教養部、法経短大の 4 部局で協議のうえ決定することを了承した。
4. 他大学への配置換えに伴う図書の管理換の希望があり、これを了承した。

(平成元年度第 1 回 H 1.5.10・水)

議事

1. 文献複写料金の改正に係る「静岡大学附属図書館文献複写規程の一部を改正する規程（案）」を承認した。
2. 平成元年度図書館運営費予算の編成に当り、試算表により運営費予算の増額について各部局教授会等で検討願うこととした。
3. 平成元年度図書館業務電算化委員会委員を了承した。
4. 平成元年度大型コレクションの要求順位については、関係 4 学部で協議の結果合意した順位により、文部省に提出することとした。

(平成元年度第 2 回 H 1.6.13・火)

議事

1. 平成元年度図書館運営費予算について、「図書館運営費予算案」及び「部局別負担額内訳案」により審議の結果、これを了承した。また、この予算案を委員会案として、各部局教授会等で検討願うこととした。
2. 平成元年度学生用図書購入費の配分について原案どおり承認した。
3. 平成元年度指定図書購入費負担額について審議の結果原案どおり了承した。

☆平成元年度図書館委員会委員名簿

館 長	水野秀夫	
分 館 長	藤田郁夫	
人 文 学 部	山脇貞司	本多隆成
教 育 学 部	澤渡千枝	花井信
理 学 部	佐藤宏樹	近田文弘
工 学 部	深林太計志	
農 学 部	伊藤忠夫	山田雄三
教 養 部	若杉英治	南利明
電子工学研究所	杉浦敏文	豊田耕一
電子科学研究所	佐々木彰	秋山鉄夫
法経短期大学部	松富弘志	
本 部	森脇英一	
附 属 図 書 館	宮島太郎	

☆平成元年度図書館業務電算化委員会委員名簿

館 長	水野秀夫	
分 館 長	藤田郁夫	
人 文 学 部	居城弘	本多隆成
教 育 学 部	澤渡千枝	堀江雅幸
理 学 部	佐藤宏樹	小沼茂樹
農 学 部	伊藤忠夫	山田雄三
教 養 部	馬場良和	南利明
法経短期大学部	松富弘志	石橋太郎
工 学 部	阿部圭一	深林太計志
電子工学研究所	杉浦敏文	宮尾正大
電子科学研究所	秋山鉄夫	
附 属 図 書 館	事務部長 情報サービス課長	情報管理課長 学術情報係長

☆平成元年度「図書館通信」編集委員

館 長	水野秀夫	
人 文 学 部	山脇貞司	
教 育 学 部	澤渡千枝	
図 書 館	望月信夫	石原良江
	横山芳美	川崎雅史

教職員著作寄贈図書(本館)

山口幸洋 (元教養部非常勤講師)

『方言研究年報 第28巻 (1985)・第29巻 (1986)』(執筆) 和泉書院△ 818/H 73/28・29

『静岡市曲金』の研究 著者△ 818.54/Y 24

須藤 修 (法経短期大学部)

『ノイズと経済秩序』日本評論社△ 332.06/Su14

植松 茂 (名誉教授)

『古代歌謡演出論』明治書院△ 911.11/U 41

『植松茂岳 第3部』愛知県郷土資料刊行会△ 121.27/U 41 U/3・3 A

菅野禮行 (教育学部)

『平安初期における日本漢詩の比較文学的研究』

大修館書店△ 919.3/Su 25 (開架)

黒羽清隆 (元教育学部)

『黒羽清隆詩集 いまはけものたちのねむりのとき』日日授業実演会△ 911.56/Ku 72

上田伝明 (教養部)

『マニフェスト・デスティニとアメリカ憲法』法律文化社△ 323.53/U 32

大橋昭夫 (元法経短期大学部非常勤講師)

『明治維新とあるお雇い外国人』(共著) 新人物往来社△ 289.3/V 61 O

伊藤正義 (教育学部)

『ゲスター・ロマノールム』(訳)篠崎書林△ 194/G38

小澤康彦 (人文学部)

『イギリス・ロマン主義に向けて』(執筆) 名古屋大学出版会△ 930.2/Ka 97

上野実朗 (名誉教授)

『植物文化誌』著者△ 470.4/U 45

静岡大学教育学部附属浜松中学校

『自己学習能力を育てる』(編)編者△ 375/Sh 94

静岡大学教育学部

『生涯学習の体系化と社会教育の実践的展開』

(編) 静岡大学△ 379/Sh 95

松田敬一郎 (名誉教授)

永井衛・村井宏・澤田均・横田博実 (農学部)

『アラブ首長国連邦砂漠緑化研究協力中間業務報告書』(執筆)国際協力事業団△ 614.3/Ko 51

山本義彦 (人文学部)

『戦間期日本資本主義と経済政策』柏書房△ 332.1/Y 31

川口博 (人文学部)

『伝統と近化』(編著) 彩流社△ 230.5/Ka 92

若林淳之 (名誉教授)

『静岡県風土記』(監修)旺文社△ 291.54/Sh 94

本多隆成 (人文学部)

『近世初期社会の基礎構造』吉川弘文館△ 215/H84

☆人事異動

○新任 (元. 7. 1付)

水野秀夫 館長 (農学部教授)

藤田郁夫 分館長 (工学部教授)

○退任 (元. 6. 30付)

森口治生 館長 (理学部教授)

大山 裕 分館長 (工学部教授)

○配置換 (元. 4. 1付)

塩澤住夫

(情報管理課総務係長→農学部会計係長)

松永幸夫

(情報管理課和書係→理学部会計係)

成島 彰

(教育学部附属養護学校・幼稚園事務係長→情報管理課総務係長)

藤田 洋

(情報管理課総務係→情報管理課和書係)

向坂浩一

(情報管理課洋書係→情報管理課総務係)

山本 孝

(情報サービス課参考調査係→情報管理課洋書係)

溜渕文子

(情報サービス課運用係→情報サービス課参考調査係)

☆お知らせ

◎文献複写料金の改正について

本年4月より消費税が実施され、それに伴い、国立大学図書館の文献複写料金が改正されました。主なものは電子式複写方式による学外者料金で、従来の1枚45円から50円になりました。

従って、他の国立大学に複写を申し込んだ場合これが適用されます。

他にマイクロフィルム方式によるもの等、一部改正がありますが、ご利用の際、参考調査係へお尋ね下さい。

お知らせ(本館)

1. 貸出期間の延期

7月1日(土)から8月30日(水)の間に貸出した図書の返却期限は、9月7日(木)とします。

2. 閉館時刻の変更

7月21日(金)から8月31日(木)までの間、閉館時刻は次のとおりです。

平日 午後5時

土曜日 正午